

天文学とプラネタリウム 第11回

第1回プラネタリウムコンクールを見学してきました！

天プラ企画書 on 星ナビ

プラネタリウム・コンクール



高梨直純（東大M2/天文学教育研究センター所属） 平松正顕（東大M2/国立天文台ALMA推進室所属）

はじめに

去る2月11日、三重県松阪市のみえこどもの城で行われた第1回プラネタリウムコンクール(略してプラコン)を見学してきました。予選を通過した10チームが、冬の南天をテーマに語りの腕を競い合うのですが、想像以上にハイレベルなコンクールでした。落ち着いたしゃべり、工夫のこらされた構成、斬新な着眼点などなど、初めて開催された大会とは思えないほど出場者の皆さんのレベルが高かったと思います。詳細は次号の星ナビに掲載されるのでそちらをお楽しみに(ちなみに一押しは特別賞の平野さん)。今回の天プラ連載では、大成功したみえこどもの城のプラコンの例をふまえて、どんなコンクールが考えられるかアイデアを出してみたいと思います。

いろいろな語りを見たい

一般枠の他にぜひプロ枠、シニアプロ枠などがあっても楽しそうです。各地の現役プラネタリアンや、既に一線を退いた名プラネタリアンの語りを一気に聞けるとなれば、勝負の枠を越えて我々プラネタリウムファンにとっては垂涎ものでしょう。また、落語家や漫才師など語りのプロ、声優さんや俳優さんのような演技のプロ、天文学者のような研究のプロなどなど、様々な分野にも声を掛ければ異色のプラネが楽し

めそうです。一般枠も、各地の天文サークル、天文部、天文ボランティアのグループなどに声をかけ、幅広い層から参加者を募りたいですね。

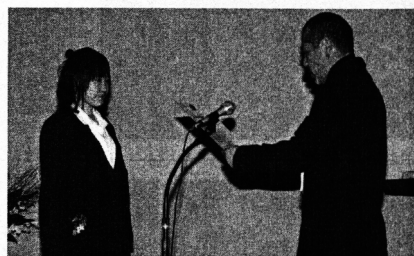
どう審査する？

審査方法も色々なバリエーションが考えられそうです。プラコンでは、全出場者がしゃべり終わってから審査するという方法でしたが、例えば欽ちゃんの仮装大賞方式で審査員がその場ですぐ審査したり、詩のボクシングのようにお客さんが判定する勝ち上がり形式も盛り上がりそうです。テーマの与え方も、事前に決められた課題をこなすスタイルの他にも、その場でランダムに映し出された星空を即興で解説するなんて形式でもスリリングで面白そう。創造性溢れる語り、聞いてみたいものです。

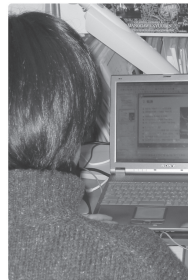
地域密着型のコンクールに

なかなか遠くまでいけない小学生や中学生、高校生などに積極的に参加してもらうためには、各地のプラネタリウムで予選を行うと良さそうです。学校の天文サークルや天文部が部活動の一環としてコンクールへの出場を目指すようになれば、新しいプラネタリウム文化が華開くのではないのでしょうか。

色々好き勝手な事を書いてしまいましたが、今回のプラコンは大変に刺激的でした。河原館長を初めスタッフの皆さん、お疲れ様でした！



天プラのイチ押し、平野加奈さん(写真左)は台風被害で有名になった三重県宮川村からの参加。ふだんからプラネタリウム以上の満天の星空が広がる、宮川村ならではの話を展開して特別賞を受賞！



修論発表をしている高梨(右、矢印の先)と発表準備中の平松(左)。高梨のは超新星の、平松は星形成の研究成果を発表しました。無事に卒業したら、そのまま博士課程に進学です。



www.tenpla.net